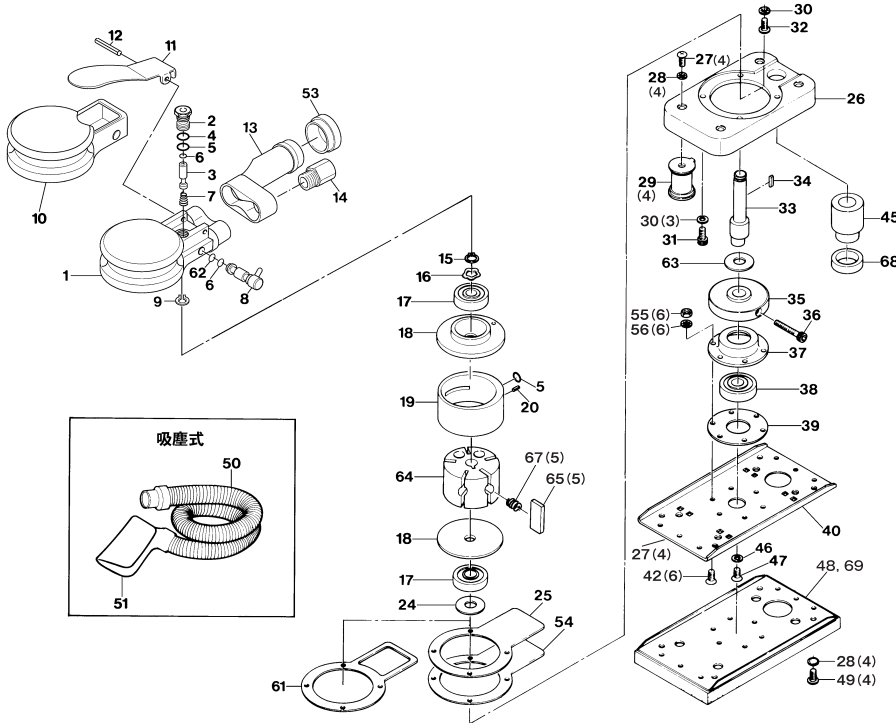


# 部品分解図

## SP-3800-A5 (非吸塵式) SP-3800DF-A5 (吸塵式) 100×180mm オービタルサンダー



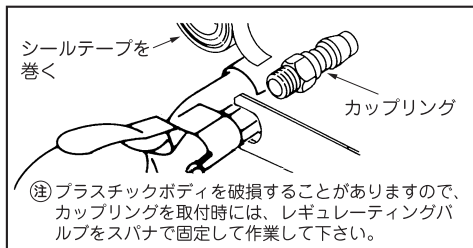
### パーツリスト

番号	パーツNo.	名称	個数
1	3800-01	ハウジングボディ	1
2	3800-02	バルブプッシング	1
3	3800-03	バルブシャフト	1
4	3800-04	オーリング	1
5	3800-05	オーリング	2
6	3800-06	オーリング	2
7	3800-07	バルブスプリング	1
8	3800-08	レギュレーター	1
9	3800-09	リテーニングリング (Eタイプ)	1
10	3800-10	ボディカバー	1
11	3800-11	バルブレバー	1
12	3800-12	スプリングピン	1
13	3800-13	エキゾーストカバー	1
14	3800-14	インレットプッシング	1
15	3800-15	リテーナーリング (Cタイプ)	1
16	3800-16	ウエーブワッシャー	1
17	3800-17	ボールベアリング	2
18	3800-18	エンドプレート	2
19	3800-19	シリンダー	1
20	3800-20	スプリングピン	1
24	3800-24	ベアリングシール	1
25	3800-25	ガスケット (非吸塵用)	[1]
26	3800-26	ベース	1
27	3800-27	スクリュー	8
28	3800-28	ロックワッシャー	8
29	3800-29	ラバーマウント	4
30	3800-30	スプリングワッシャー	4
31	3800-31	Hex.スクリュー	3
32	3800-32	Hex.スクリュー	1
33	3800-33	ローターシャフト	1
34	3800-34	キー	1
35	3800-35	バランス	1
36	3800-36	Hex.スクリュー	1
37	3800-37	ベアリングハウジング	1
38	3800-38	ボールベアリング	1
39	3800-39	ベアリングカバー	1
40	3800-40	シュープレート	1
42	3800-42	スクリュー	6
45	3800-45	サクシオンチューブ (吸塵式)	[1]
46	3800-46	ワッシャー	1
47	3800-47	スクリュー	1
48	3800DF-48	パッド [穴有り,マジック(M)吸塵式 穴ナシ,マジック(M)非吸塵式]	[1]
49	3800-49	スクリュー	4
50	3800DF-50	ダストホース (吸塵式)	[1]
51	3800DF-51	ダストバッグ (吸塵式)	[1]
53	3800-53	ハンドルキャップ (非吸塵式)	[1]
54	3800-54	ビニールガスケット (非吸塵式)	[1]
61	3800DF-61	ガスケット (吸塵用)	[1]
62	3800-62	オーリング	1
63	3800-63	スペーサー	1
64	3800-64	ローター	1
65	3800-65	ローターブレード	5
67	3800-67	スプリング	5
68	3800-68	フェルト (吸塵式)	[1]
69	3800DF-69	パッド [穴有り,のり(P)吸塵式 穴ナシ,のり(P)非吸塵式]	[1]

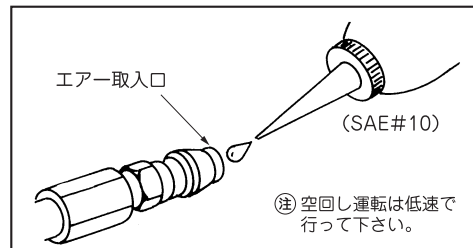
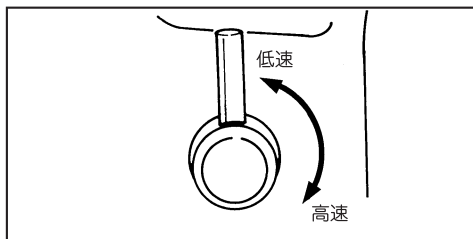
改良のため、仕様を変更する場合があります。

### ご使用方法 SP-3800-A5・SP-3800DF-A5

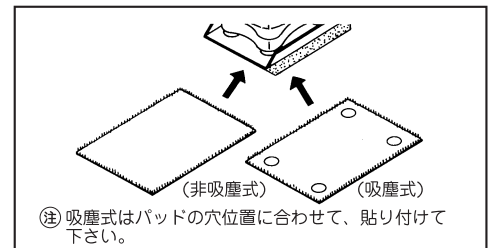
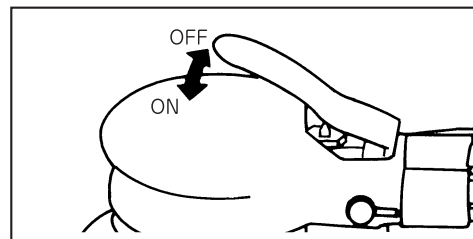
1. カップリングのネジ部にシールトープを巻きつけ、エアームれのないように、エアークレジット口にしっかりと取り付けて下さい。
2. 作業前にエアークレジットより、スピンドル油がタービンオイルを数滴入れて、軽く空回し運転を行い、可動部分に油をなじませて下さい。
3. 給油が終わったら、いったんエアークレジットを取り外し、吸塵式は穴付のペーパーを、非吸塵式は穴ナシのペーパーをパッドに貼り付けて下さい。



4. 作業内容に合わせて、エアークレジットの調節を行って下さい。

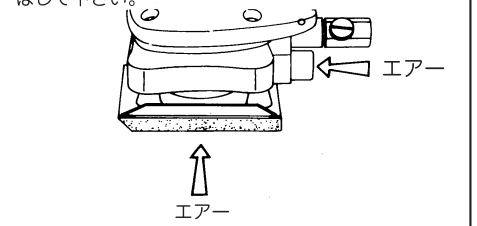


5. スロットルレバーでスピードの調節を行って下さい。初めは軽く押さえ、ゆっくりと始動させて下さい。



### 〈SP-3905DF-A5〉メンテナンス

吸塵力が弱くなった場合、エアークレジット等で、パッドの吸塵穴や、排気口から空気道へエアークレジットを飛ばして下さい。



### SP-3800-A5・SP-3800DF-A5 ⚠ 取扱上のご注意

- 振動を伴いますので、なるべく連続作業は避け、休憩しながら作業して下さい。
- ツールを逆さに置かないで下さい。不意にスタートし、事故の原因となります。
- 作業中のパッドには絶対に触らないで下さい。
- パッドがツールにしっかりと取り付けられているか確認して下さい。
- ボディをしっかりと押さえながら、作業して下さい。